



# 地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和2年度 第3回きこえとことばの基本研修会

## テーマ「補聴器・人工内耳・デジタル無線補聴システムについて」

8月20日(木)に第3回きこえとことばの基本研修会を開催しました。

今回は補聴器やデジタル補聴システム機器を製造しているソノヴァ・ジャパン株式会社の方に来校いただき、補聴器や人工内耳のしくみや特性について基礎的な内容を学ぶとともに、より効果的に活用するためのデジタル補聴システムの有効性について、また最新機器の情報を学びました。



### デジタル無線補聴システムの体験

・無線補聴システムの実際の聞こえ方と通常のスピーカーの音の違いを体験しました。無線補聴システムでは話し手の声が鮮明で雑音がありません。一番後方の位置でも聞き取りやすさは変わりませんでした。

### 使い方のこつ

- ・マイクは話し手の口元から15cm以内に付けます。マイクの上方向の音を拾う仕組みなので隣や下方向の音は拾わないそうです。(音楽の授業のピアノ演奏等)
- ・接続の確認は、聞き手に話し手の顔を見せずにマイクに軽く触れるなどして音を出し、聞こえたかどうか確認する方法も有効です。

### 今後の姿

- ・スマートホンと連動させることで補聴器の音量の調整や音楽等のミキシングが可能になるそうです。
- ・音の種類によって変換が瞬時に行われ、より聞き取りやすくなります。



### デジタル無線補聴システムの効果

現在の補聴器や人工内耳の性能は向上し、音が良く入るようになっていきます。補聴器がカバーするのは1~2メートルです。

“話し手と聞き手の距離が遠い” “周囲に騒音・反響音がある” “複数人との会話の場面”  
こんな時には、補聴器や人工内耳を装着していても、言葉の聞き取りが難しくなってしまいます。

そのようなときにデジタル無線補聴システムを効果的に使うことができます。

- ① ノイズを軽減できる
- ② 聞きたい声に集中できる
- ③ 遠くても話者の声が聞こえる
- ④ 話者の声がきれいに聞こえる



### <参加者の感想>

- 補聴器、人工内耳をつけている状態の聞こえ方、SN比等、初めて知ることがありました。
- 普段の授業でもデジタル無線補聴システムの送信機(インスパイロ)を使用していますが、話し手がどのように着用すれば良いか、接続の確認をどのようにすると良いか等、実際の授業に生かせる内容でした。
- 授業での関わり方についても教えて頂けたら嬉しかったです。